



# 神明造の両本殿が並び立つ 国内唯一の神社

# 内外大神宮

## 常陸国唯一の伊勢神宮領地

今月は、1200年以上の歴史を持つ、小栗地内の国指定重要文化財「内外大神宮」をご紹介します。

**内** 外大神宮は、内宮と外宮の本殿2棟を東西に並び立たせる国内唯一の社殿形式で、歴史的価値が高いことが認められ、平成21年に国指定重要文化財となりました。創建時期は、社伝では大同元年(806年)の頃とされています。本殿建物は、記録によれば応永年間(1394年~1427年)に兵火により焼けてしまいましたが、江戸時代の延宝7年(1679年)に再建され、現在まで風雪に耐え、領内を見守りながら今年339年目を迎えます。

本殿建物の特徴は、三間社神明造の建物で地面から屋根の棟木を支える棟持柱が建物の外に立てられていることです。屋根の上の千木と勝男木(鯉木)が内宮には内削ぎで10本、外宮には外削ぎで9本あり、伊勢神宮の内宮と外宮と同

じとなっています。

御遷殿は、一間社流造の建物で遷しの際とも呼ばれ、本殿の建替えや祭礼などで御祭神を一時御遷しするために使われる仮宮といわれています。室町時代末期の古い工法を残し、また、元龜5年(天正2年:1574年)という建築年代のわかる貴重な建物は、今年444年目を迎えます。

伊勢神宮の記録では、平安時代後期には神宮の領地(保、御厨)と見ることができ、絹を伊勢神宮内宮に貢納していたことが分かります。

この地を代々支配した小栗氏は、桓武天皇、常陸平氏の流れをくむとされています。11世紀の終わりの頃からこの地を伊勢神宮の領地として治めたことされ、地名を苗字として名乗り、のちに小栗判官伝説として浄瑠璃や歌舞伎のモデルにもなりました。

問 文化課(本庁3階) ☎22・0183



ちくせい観光大使  
飯塚まゆさん 柳田憲枝さん



御遷殿 室町時代末期に建てられたもので、扉金具に「元龜5年(天正2年:1574年)甲戌2月吉日」の銘が刻まれています。



小栗内外大神宮太々神楽 春例祭、秋例祭で奉奏される行事で、寛延4年(1751年)から続くといわれています。